

# 不登校の子居場所は

来月11日  
宮前市民館 考えるフォーラム

不登校になった子どもにとって、学校に行けるようになるのが最善とは限らない。固定観念を捨て、より柔軟に子どもたちの居場所を考えるフォーラム「居場所のちから」が

二月十一日、川崎市宮前区の宮前市民館で開かれる。市内小中学校の不登校の児童生徒は二〇〇九〜一一年度の三年間、千三百人前後で推移している。

不登校は学校に復帰させるものという時期が続いたが、減る傾向を見せない中で「行政としても『居場所づくり』を強く打ち出せるように変わった」と企画した宮前区子ども支援室の室長の青山正彦さん(五七)。川崎市富士見中で公募校長の経験もある青山さんは「こ

の問題を市民で共有したい」と企画趣旨を語る。当日は、川崎区で不登校の子の居場所になっている「子どもサポート旭町」などの取り組みを紹介。NPO法人「フリースペースたまりば」理事長で、市子ども夢パーク(高津区)所長の西野博之さん(五七)が講演する。



西野博之さん

ストレス、いじめなど、それぞれに悩みを抱える子どもたちを、夢パーク内のフリースペースで見ている西野さんは「家庭、地域、学校にどんな居場所づくりをすれば良いか、ヒントを探る会にした」と話す。

フォーラムは午後二時〜四時。入場無料で、申し込みは電話などで

宮前区子ども支援室 電話(856)3256

申し込みは電話などで

へ。(山本哲正)